

ネコ処分依頼殺到し悲鳴

尼崎市動物
管理事務所

尼崎市が設置している動物管理事務所(同市東難波町四丁目)が、押し寄せるネコの処分依頼に悲鳴を上げている。阪神間でただ一つ動物の安楽死施設を備えているとあって、認めていない他市からこっそりと持ち込まれるケースもあり、昨年の処分数は千四百三十四と、八年前の約二・三倍にも達した。

保管の窮余の一策で応じている。

し、出産数も増えているため、飼い主が持て余すのが原因と、分析している。処分されるネコの九割以上が生後一カ月以下の子ネコだ。

ル袋に詰め、冷凍庫で保管している。

このため、同事務所では、幼稚園や学校と協力してペットの飼い方や生命の尊さを教えるなど、市民への教育、啓発運動を積極的

に展開することを計画している。幼稚園児らに動物と直接接してもらい命の大切さを学ばせる「ふれあい教室」や、講演会なども検討している。獣医の生見哲男所長は「子供が生まれた、引越したとすぐペットを捨てるが、人間のエゴで犠牲になるネコがいかに多いか、現実をよく知って欲しい。避妊手術をするのは、飼い主の当然の義務です」と、飼い主に責任を求めている。

暖房の普及や栄養過多で年中発情期となり、出産ラッシュになるためらしい。焼却処分するまでの死体の保管もままならず、冷凍庫

保管の窮余の一策で応じている。同事務所は、ネコの引き取り事業を昭和五十七年から始めた。初年度の処分数は五百六十四匹だったが、毎年、約二割のペースで増え始め、一昨年度は千二百八十一匹に。今年度は四月五だけで四百七十一匹にも上り、過去最高になりそうな勢い。県全体でも昨年、一万二百二十二匹処分し、八年前に比べ約四割増になっている。同事務所は、栄養の取り過ぎなどで、季節に関係なく出産

ネコは炭酸ガスで安楽死させるが、処分が追い付かないため、子ネコのほとんどは数日間、えさも水も与えられずに、四十センチ立方のかごにすし詰めにされたまま餓死していく。県が月に三回死体を引き取りまとめて焼却するが、それまでの保管場所も足りないため、二年前から、死体をビニ



小さなかごの中で、まだへその緒がついた生後間もない子ネコが、水もえさも与えられず、次々に餓死していく—尼崎市東難波町4丁目の市動物管理事務所

新聞を読者に届けている朝

雲仙被災へ救援金
受け付けの窓口に
きょうから朝日会

はんしん

神戸支局

☎078(331)4144

神戸市中央区京町68-2

阪神支局 0798(33)5151

西宮市与古道町1-1

尼崎支局 06(436)2250

尼崎市武庫町1丁目35-20

宝塚通信局 0797(72)2560

伊丹通信局 0727(72)3717

川西通信局 0727(57)9424

販売のご用は

西宮 0798(33)2979

—10時から17時まで

広告のご用は078(331)0521

この夏も、
ボーナスは農協へ

レインズプラン(ファミカ)好評受付中。

兵庫県信連